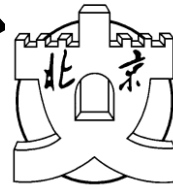


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第10号
令和3年2月19日
校長 栗本 和明

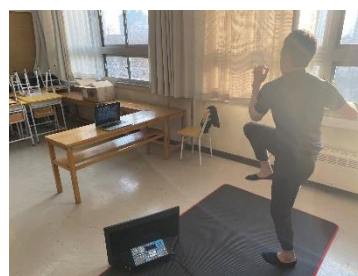
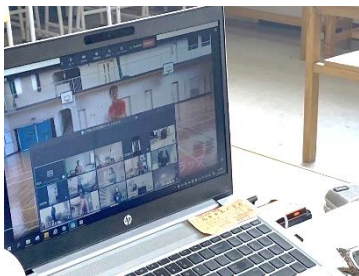
立春，愿新的开始，一切安好

2020年度父母会会長 正田 哲也

児童生徒の皆さん，よく頑張っていますね。登校停止となった1月25日の週に，校舎の中を見て回る機会がありました。皆さんのオンライン学習の様子，書初め作品，絵画作品，ゆるキャラの絵，南アメリカの地図，校外学習の発表資料，どれも皆さんの学習の様子が浮かんできました。大きな変化の中でも着実に成長していく皆さんをととても素晴らしいと思います。皆さんの前向きな姿を見るたびに勇気づけられる思いです。急遽，帰国した友達もいます，北京に戻れないまま帰国となってしまった友達もいます，北京にまだ戻れない友達もいます。日本人学校には別れが付きものですが，それでもあまりにも多くの別れを経験しましたね。離れ離れにはなっただけれど，今後も連絡を取り合う仲であってほしいと思います。



保護者の皆さま，この一年間父母会活動へのご理解とご協力ありがとうございました。通学ボランティアへの応募，各委員会へのボランティア参加，クラス委員の継続，次期役員への立候補など多くの善意に支えられてきた一年間でした。また，父母会にいくつもの問い合わせ，ご意見をいただきました。これらはすべてとても貴重な声だったと感じております。学校や理事会に相談する中で，一つ気付いたことがありました。私たちは，子供たちの教育環境の充実という目的のために，様々な視点からの意見を持ち寄りより良い学校を目指しているのだ，と。言葉にすれば至極当たり前なのです。コロナ禍の中，職責を超えた仕事で満身創痍の先生方にふれ，より良い学校運営に時間を惜しまない理事の方々にふれ，そして様々な異なる状況に置かれた保護者からの声にふれ，父母会として何ができるだろうかという思いを強く持つようになりました。



画面共有し，児童の動きを確認しながら，体育の授業をしています。

先生方，本当にお疲れ様です。感謝の言葉しかありません。先日，先生が教室で一人カメラに向かってオンライン授業をされている様子を拝見しました。子供から，「今日，先生泣いていたよ。」と聞くこともありました。授業のため遅くまで準備をされていることも存じています。質の高い教育を継続しようとするぎりぎりの心理状態で，最大限の努力をされる姿を，もっと多くの人に知ってほしいと思いました。

最後に，北京日本人学校は児童生徒数が減り続けています。北京は帯同家族にとって良い生活環境です。北京赴任者にはぜひとも家族帯同で，子供たちを北京日本人学校に入れてほしい。そのためには，栗本校長がよく口にされる北京ならではの教育の充実を図り，同時に学校の特長を発信する必要があります。先生と保護者が，さらに相互理解を深め協働し，学校が児童生徒にとってよりいきいきと過ごせる場所となることを願っています。

帰任される先生方のあいさつ

栗本 和明 校長先生

学校が開校してから16人目の校長として務めさせていただきました。先輩方から受け継いだバトンは「北京らしい活動」「北京でしか実現できない学習」を子供たちに提供する、ということでした。質の高い授業を一コマずつ誠実に積み上げること、教育活動に有用な校外学習を実現すること、専門性の高い特別授業を企画すること、小中一貫校の良さを活かすこと…。保護者の皆様からの声援に力をいただき、成果を上げられたと思います。外国での学校運営の困難さに直面したりコロナ禍に翻弄されたりした時、学校運営理事の皆様はじめ北京の日本人コミュニティの皆様から絶大なご支援ご指導ご助力を賜りました。本当にありがとうございます。公立の小中学校に戻り、北京での経験を大いに生かしたいと思います。

田島 里紗 先生

思い切ってチャレンジした3年前。北京日本人学校に行くことが決まった時、胸が熱くなりとてもワクワクしました。初めてのことが多く、色々なことがあった刺激的な3年間は、あっという間に終わりを迎えようとしています。

北京日本人学校には、素敵な笑顔と温かい心をもつ人がたくさんいます。そんな皆さんに出会えて本当に幸せです。思い出がいっぱい詰まった学校を離れるのは寂しいですが、いつか日本や世界で活躍する皆さんに会えることを楽しみに、私も新たな環境で頑張ります。帰国後は直接関わることができないですが、ずっと皆さんのことを応援しています！

3年間で多くの人に出会い、支えられ今日まで過ごすことができました。元気いっぱいなJSBの皆さん、いつも温かいお言葉をかけていただいた保護者の皆さま、本当にありがとうございます。

鈴木 利勇摩 先生

3年前、自分の夢の一つだった日本人学校への赴任が決まり、喜びと不安を抱えて北京やって来ました。赴任前は周りの人から「北京って大丈夫…？」と言われ、正直不安な気持ちが大きかったのですが、北京に来てみると、人は優しい、食物はおいしい、学校は楽しい…と素敵どころがたくさんありました。何事も自分で体験してみないとわからないものだなと感じました。



この学校では、様々なことを経験させていただきました。日本と同じようにいかず苦労したり、日本ではできないことができたりと、充実した日々を過ごせました。そして、私がここまで頑張ってきたのは、毎日元気でやる気に満ちた子供たち、学校活動に親身に協力して下さった保護者の皆様のおかげです。3年間、本当にありがとうございました。

千田 愛 先生

「仙台市って岩手県だよな？」「岩手県はなまはげで有名？」初めて北京に来た年によく言われた言葉です。そうそう…と思った皆様！残念ながら、大間違いです。岩手県の県庁所在地は“盛岡市”で、岩手県はなまはげが有名ではありません。（お隣の秋田県がなまはげで有名です。）

今まで岩手県で生まれ育ってきた私にとって、これらの言葉があまりにも衝撃的だったことを鮮明に覚えています。多くの刺激を受けたこの3年間。自分が勝手に感じていた「当たり前」や「先入観」がちっぽけなもので、もっと広い視野をもって生きることを学びました。そして出会った子供たち、保護者の皆様、理事の皆様、中国人スタッフの方々に本当に支えていただきました。「感謝」の言葉に尽きます。まだまだ厳しい状況ではありますが、どうか心も体も元気にお過ごしください。最後に岩手弁でさよならの挨拶をさせていただきます。



『んだばね』


 **小林 克啓 先生**



小学生の時、「行ってみないと分からない、話してみないと分からない。じゃあ、やれ。」と、担任の先生に言われました。少々乱暴な言葉でしたが、なぜかよく覚えています。

ここ北京での生活は、まさしくこの言葉通りであったように思います。日本でしか生活したことがない私が一人で北京へ来ることは勇気のいることでした。ですが、勇気をふり絞って、一歩踏み出した先で自分が見たものや感じたものは何にも代えられない大切なものになりました。

北京日本人学校では子供たちをはじめ、保護者の方々や理事の方々との多くの出会いがありました。当たり前が当たり前ではないと改めて感じる今日この頃、日本を飛び出しこうやって皆様と出会えたことには感謝しかありません。北京で、そして JSB で2年間を過ごせて本当に良かったです。ありがとうございました。

 **西村 美優紀 先生**



また、今年も別れの季節がやってきました。北京に来る前は不安でいっぱいでしたが、実際に来てみると不安はすぐなくなりました。北京日本人学校には、とても元気で誰に対しても優しくできる子がたくさんいました。子供たちの笑顔はいつも私を元気にしてくれました。今年はオンライン授業という初めての経験もあり、大変な一年でしたが、「子供たちが学校にいることはとても幸せなことだ」と改めて感じ、1日1日を大切に過ごさなければいけないことに気付くことができました。そして、「やっぱり子供と関わることが大好きだ」と実感しました。2年という短い時間でしたが、北京日本人学校で過ごした日々は一生の宝です。保護者の皆様、理事の皆様、中国人スタッフの皆様、お力添えをいただきましてありがとうございました。ここでの経験を生かし、日本でも頑張ります。

 **尾鼻 祐也 先生**

『海外で仕事がしてみたい。』そう思い中国北京に来て、はや3年が経とうとしています。この3年間で多くの経験を積むことができました。今振り返っても貴重な思い出です。

教師というのはゴールの無い職業です。日々変わっていく状況に対応していかなければいけません。そして、日々の授業や子供たちに対して情熱をもって取り組まなければいけません。コロナウィルスも私たちに課せられた試練だったのではと思っています。『一生青春・一生感動・一生懸命』今後も忘れず日々成長する教師となっていきたいと思います。


私を成長させてくださったすべての出会いに感謝します。イチロー選手の言葉を借りるとしたら、「北京に来たことに、後悔などあるはずがありません。」ありがとうございました。

 **佐々木 望美 先生**

小・中学部の併設校ということで、心弾ませながら3年前の4月赴任したことを昨日のこのように思い出します。毎朝、昇降口で子供たちの名前を呼びかけての挨拶は、授業以外の表情を見ることができる憩いの時間でした。

音楽では、楽しみながら学ばせたいと思い日々子供たちの顔を思い浮かべながら授業づくりをしてきましたが、音楽の授業にとってオンラインの壁は高かった。もっといろいろな方法があるかもしれないと悩む毎日でした。一喜一憂した最後の年でしたが、温かいお声がけをくださった保護者の皆様、よりよい学校になるよう支えてくださった理事会の皆様、安心できる環境をつくってくださった中国人スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

またいつかどこかで会える日まで、皆様お元気で！





戸倉 若菜 先生

時間が過ぎるのは早く、あっという間に3年が経ってしまいました。北京での生活は驚くことばかりでしたが、皆さんやスタッフの方にいろいろと教えていただき、今ではすっかり慣れ、離れるのがさみしいなあと感じています。心も体もどんどん成長していく皆さんと会える毎日はとても楽しみで、一方でその成長のはやさに驚かされることもありました。ここまでやってこられたのは保護者の皆様、スタッフの皆様、理事の皆様の支えがあつてのことだと思います。本当にありがとうございました。

JSBのみなさんはたくさんの出会いと別れを経験していると思いますが、その一つ一つの繋がりを大事にしてくださいね。

「偶然の出会いを大切に」 またどこかで会えることを楽しみにしています。



入川 琢仁 先生

3年前の春、北京首都国際空港に降り立ち、この地でどんな出会いがあるのかとワクワクしたのを鮮明に覚えています。あれから3年、多くの児童生徒や保護者の方と出会い、一方で別れもありました。転出・転入の激しいこの学校では、「出会い」と同じ数だけ「別れ」があることが身に沁みました。特に、昨年1月から多くの方が突如としてやってくる「別れ」を経験しましたね。「さよなら」を言えないままのお別れもありました。いつ何があるかわからない、そんな時代に私たちは今生きていると感じます。だからこそ、こうして顔を合わせて話ができたり、たとえ別れがあつても、その前に「さよなら」を言えたりすることは素晴らしいこと。明日も明後日も1年後もずっと仲良しのあの子と一緒にいられるかわからない…そんな思いで毎日を大切に過ごしてくださいね。世界のどこかでまた会いましょう。再見！！



山本 典良 先生

3年間の任期はあっという間に終わりを迎えようとしています。早かったなあ、さみしいなあ、というのが素直な気持ちです。

中国での生活は想像以上に素敵で、今まで自分は狭い世界で生きていたということを思い知らされました。人の温かさに多く触れ、異国で生活する上での大切さや地球上の一人であることを学びました。

学校には、無限の可能性をもって日々活動に励む子供たちや魅力あふれる先生方がいます。一人ひとりが尊敬できる素晴らしい何かをもっていて、自分自身が素直に学びたいと思えることが幸せです。保護者の方々にも多大なるご厚意をいただき、ありがとうございました。

北京は素晴らしい街であり、JSBは素晴らしい学校です。ここで学んだことを小さな火花として心に灯し、日本でも頑張ります。ありがとうございました。



事務局のまど

忘れの家 何人？

小学部			令和3年2月19日現在				
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1年	10	10	20	4年	11	17	28
2年	17	22	39	5年	7	13	20
3年	14	13	27	6年	12	11	23
				小総計	71	86	157

中学部				
1-1	7	8	15	
2-1	12	7	19	
3-1	6	6	12	
中総計		25	21	46
総合計		96	107	203

学校運営がある程度落ち着いてきたため、3学期から中国語講師による中国語の授業がスタートしています。1か月経たないうちに突然始まったオンライン授業も、日本人教員との連携でうまく進行できているようで、講師派遣機関との折衝担当の私としては、3人の講師が週2回出勤してくる際の笑顔、子供たちがいきいきと中国語の授業を受けている様子を見て嬉しいです。ずっと叶わなかった授業が復活するにあたって、講師、教員、子供たち、当たり前の日常を愛おしく思えるみんなの気持ちが学校全体をほっこりさせているようです。(事務局長 倉片)